

高校生活のリズム作り

新学期が始まって1か月。

1年生は少しずつ学校生活に慣れてきたころでしょうか。2・3年生は、進級して最初の定期考査がもうすぐそこまで迫って来ています。



高校生活のリズムは、作れているでしょうか。

- 起床時間、学習開始時間、就寝時間を固定しているか
- 計画を立てて学習に取り組んでいるか
- 目標や目的をもって学習に取り組んでいるか
- 宿題や予習にまじめに取り組んでいるか
- 定期考査のための復習を始めているか

これらの事柄にしっかりと取り組んでいる生徒に、秋以降の学力の伸びが見取れる、というデータがあります。（2020年度、「スタディサポート」の全国集計結果より）

*

*

○学習開始時間を固定していた人

	秋に成績の良かった人	成績の良くなかった人	差
1年生	76、8%	49、7%	約25%
2年生	80、8%	43、1%	約40%

学習のリズムを作ることが、重要であることがはっきりと分かるデータです。

○目標を立てて計画的に取り組んでいた人

	秋に成績の良かった人	成績の良くなかった人	差
1年生	60、1%	36、5%	約25%
2年生	70、4%	35、9%	約35%

目標がしっかりしていると、頑張る元気が出てくることが分かるデータです。

*

*

学習開始時間を決めていた人、目標をもって学習に取り組んでいた人、それらの人の方が、そうでない人に比べると、明らかに学力が伸びているのです。つまり、高校生活のリズム作りが、皆さんが進路実現に向けて、一次予選を無事通過出来ているかどうかを見極める、バロメーターであると言えるのです。

高校3年生にとっては、この時期は、「基礎力養成期」。

これまでの学習事項のなかで、理解が不十分なところや、正確に覚えきれていないところを把握しましょう。弱点分野の克服を進めながら、理解を確実にしていき、夏休みの「基礎力完成期」に備えましょう。



どの学年にも言えることですが、進路実現のために、特別な勉強があるわけではありません。大事なものは、机の前での自分の勉強。高校生活のリズムを作って、毎日の学校生活を大切に積み上げていってください。

「やりました」と「出来ました」

ある部活動の顧問の先生が、集会で、生徒たちによく言っておられた言葉を紹介します。〇〇の所には、「バット」とか「ボール」とか「ラケット」とか「楽器」とか、それぞれの部活動で、よく使うものを当てはめて読んでください。

「〇〇を持つ前に、鉛筆を持て。鉛筆を持つ前に、掃除道具を持て。」

「掃除をきちんとしない生徒は、勉強もしない。」「勉強をきちんとしない生徒は、その種目の練習も、きちんとは出来ない」「そんな部員に、大事な試合は任せられない」と。

*

*

掃除については、「やりました」と、きちんと「出来た」とは違うとも。大事なのは、やったかどうかではなく、実際にきれいになったのかどうかだと。「頑張った」とか「やった」とかは聞いていない。「実際に結果が出たかどうか」が大事なのだと。

箒で掃除して、とれなかったら、箒の持ち方を変えてみる。箒でとれなかったら、雑巾でこすってみる。雑巾だけで取れなかったら、洗剤を使う。洗剤だけで取れなかったら、他の溶液を使う。やってみて出来なかったら、そのやり方を工夫する。

四角い部屋を、適当にまるーく掃除をして「やった」気になると、本
当にきれいになるまで工夫してすみずみまで掃除をするのとの違い。それは、掃除だけではなく、勉強にもあてはまる、と。

分からない問題を自分で落ち着いて考えることなく、さっと色ペンで答え合わせと正解を書き込んで、とりあえず宿題を出すのと、分からない問題をじっくり考えて、解説を読んだり先生の説明を聞いたりして、納得して勉強するのとの違い。

なんとなく勉強した覚えがあるなというあいまいな知識と、いつでもすぐに使えるものとなっている正確な知識との違い。

「やった」のか、「出来た」のか。ふだんの、掃除や勉強、部活動への取り組みについて、考えてみてほしいと思います。



図書館の進路の本

学校の図書館には、自分の進路を考えるうえで参考になる面白い本がたくさんあります。

図書館に入って**カウンター横を直進5メートル、廊下側の壁沿いの書棚**に、進路に関する本を、集めてくださっています。

『〇〇になるには』

『〇〇の仕事って』

『〇〇の資格のすべて』

文系・理系にかかわらず、いろんな分野の仕事の実際や、そのやりがいについて、高校生に向けて書いているシリーズの本です。

入試の**小論文対策に役立つ本**も、その書棚のちょうど前のあたりに集めてくださっています。

もし、まだ見ていないのなら、是非一度図書館で本を手にとってみてください。「〇〇になりたい」という強い思いは、皆さんの取り組みの、大きな機動力となってくれるはずです。

